

旭食品グループ CSR報告書

2021年

旭食品グループは
「食のライフライン」を通じて
SDGsの達成に向けて活動します。

※「持続可能な開発目標（SDGs）」は、2015年の国連サミットにおいて採択された世界共通の17の目標で2030年までに国際社会全体が協力して達成を目指すものです。



経営企画本部 経営企画部 CSR推進課

〒783-8555 高知県南国市領石246

tel.088-880-8720 fax.088-880-8702

<https://www.asask.co.jp>



本報告書の無断の転載・複製を禁じます。



目次

編集方針・CSRビジョン	2
トップメッセージ	3
特集	
①地域づくりを通して描く旭食品の未来	4
②コロナ禍中で生まれた新しい発想と行動	6
2021年旭食品グループCSRトピックス	8
重点取組	
①地域産業の創出と支援	10
②地域コミュニティ支援	12
③働く仲間の成長	14
基礎的取組	
安全・安心と環境・資源	16
コーポレートガバナンスとコンプライアンス	20
フードランド2021レポート/編集後記	22
会社概要	23
対象範囲	旭食品グループ全体
対象期間	2020年度及び2021年度上半期。ただし、一部の記述はそれ以前の経緯や将来的活動予定にも触れてあります。また記事中に登場する関係者の所属・肩書などは活動当時のものです。
発行日	2021年9月30日

編集方針

旭食品グループは、持続可能な社会の実現に向けて果たすべき社会的責任（CSR）について、その考え方や行動をステークホルダーの皆様に理解していただくために、『旭食品グループCSR報告書』を発行しています。

2021年も収束の兆しが見えないコロナウイルスの影響により、経済・社会活動は制約され続けていますが、そのような状況下でも旭食品グループの働く仲間は、委縮することなくCSR活動に果敢に取り組み、活動領域を拡大しています。

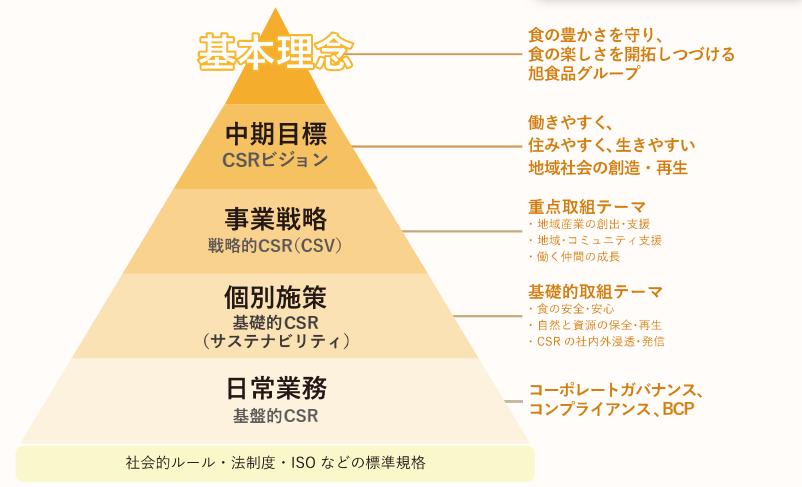
特集では、地域行政との提携・連携の具体的な事例を取り上げると共に、昨年来各地で取り組んできたコロナ禍に負けない事業活動・社会活動をお伝えしています。また、各重点取り組みでは、順調に広がりつつある各地の活動をご紹介します。

これらの活動をできるだけ多く取り上げてお伝えすることで、地域の人々をはじめ全てのステークホルダーの皆様での理解をいただき、地域・社会の抱える課題解決に向けた活動をさらに前進・深化させたいと考えています。

旭食品グループが取り組むCSR活動の今後より良い展開のためにも、読者の皆様から忌憚のないご意見をお聞かせください。

CSR ビジョン

働きやすく住みやすく生きやすい
地域社会の創造・再生



トップメッセージ CSRは次の100年を拓く

イノベーションの源

■予測を超えたCSR展開のスピード

パンデミックもはや600日を迎ますが、旭食品グループの従業員は、「コロナ疲れ」をはね返し、並々ならぬ力を發揮してくれています。ご支援くださっているステークホルダーの皆様に御礼申し上げると共に、働く仲間に心から感謝を伝えたいと思います。

昨年から今年にかけて、CSR活動も前進してきました。特に各地拠点のCSR活動は、私の予測を超えるスピード感と広がりを見せていました。その多くは、横展開によるスタート段階ですが、地域行政や教育機関との連携、地域生産者・メーカーとの商品開発、複数拠点でのフードバンク活動など従来にない多様性をつくり出しています。

特に四国・中国など、少子化・高齢化・過疎化で消費活動の低迷が想定される地域では、危機感をバネに突破口を見出す方策としてCSRに注目しています。常々語ってきたように、社会課題の解決は私たちにとって重要な事業機会のきっかけです。その意識が現場にも確実に浸透し始めていると感じています。

■CSRと経営を統合していくには

CSRと経営は本来一体のものですが、両者を統合するプロセスが重要です。ただ、それは一朝一夕にできることではなく、ステップを踏んで少しづつ深めていくものです。

最初の段階では、発想力や行動力など旭食品の良い面が出ました。次は軸をぶらさずにしっかり深掘りをしてほしい。そこから目に見える成果が出てきたり、他のプレイヤーとの結び付きが生まれたりしたら、ネクストステージの景色が広がってくるでしょう。

その段階では、社内外で旭食品グループのCSRに対する新たな認知が生まれるはずです。すると回りの目が変わり、「CSRか仕事か」といった二者択一ではなく、「CSRを仕事につなげよう」という意識が生まれてくる。私はそのとき、「CSR=経営」を外部の皆様にも明確に語れる段階がくると考えています。



旭食品株式会社 代表取締役社長
竹内 孝久

■CSRの発想で仕事観を変える

直観的な言い方ですが、CSRを考えるモノサシは「その活動から人々の笑顔がイメージできるか」です。「人々」は良きものを提供する相手の場合もあるし、良きものを生みだすわが社の働く仲間の場合もあります。

もう一つ重要なことは「既成の仕事観でCSRを見ていはいけない」ということです。なぜなら、従来の価値観で見るとどうしても発想が狭くなってしまうからです。会社の方ばかり見ていてはダメです。社会の課題に目を向けることで新しい見方が出てくる。働く仲間たちには「これから起きた社会変化の中で、わが社が得意とする食の産業のみならず、生活産業のどこにかかわることができるのか」という視野でCSRを考えてほしいと願っています。

つまりCSR活動とは、そこからイノベーションが芽を出し、花を咲かせる土壌のようなものです。地球環境や貧困・格差問題など、小学生でさえ知っている問題群に、我々大人が真剣に取り組むのは、そこから次の時代と世代に手渡す新しい知識や技術を汲みだすためなのです。私たちはCSRを通じて、旭食品グループの次の100年を考えていきます。

特集①
地域づくりを通して描く旭食品の未来

九州中央支店宮崎営業所と都城市、松山支店と東温市、この二つの協定は、防災・フードバンク支援から事業・商品開発まで多彩な連携を唱えています。行政との広く深い協働事業は、旭食品の今後のビジネスにさまざまな機会とアイデアを与えてくれるはずです。

▲都城市との包括連携協定締結式の様子

地域を育む仕事を旭食品の新たな強みに！

—九州中央支店宮崎営業所、都城市と包括連携協定締結



九州中央支店宮崎営業所は、2021年3月に宮崎県都城市と包括連携協定を締結しました。協定は災害対策、貧困対策（フードバンク支援）、6次産業推進を柱とし、双方の永続的な活動を目指す内容となっています。

▲三好所長 宮崎営業所の三好所長は、「都城職員の皆様は、地域住民が求めるサービスは何かと日々考えながら業務に取り組まれており、旭食品の営業活動にも共通する部分があると感じています。また、池田都城市長の『さまざまな意見を市政に活かす』という考え方が市役所内に浸透しているので協業に大きな可能性を感じています」とこの半年を振り返ってくれました。

宮崎営業所は11名の従業員のうち7名が地元出身で、馴染みある地域との協業は一人ひとりの働きがいにもつながっています。

地域との関わりも育むビジネスモデルは、当社の新たな強みとして全国の事業所へ広がっているようです。



▲宮崎営業所の働く仲間たち（営業所の従業員と協力会社の皆さん）

地域を盛り上げる新しいパートナーへの期待

—都城市ご担当者様に聞く



▲ふるさと産業推進局の皆様

産業推進では、『6次産業化推進実施計画』において『儲かる農業』への取り組みを進めています。防災では『災害時の物資の管理及び輸送体制の確保』をポイントとし、物流拠点として災害時の支援物資保管などでご

支援をいただきつつ、本市の防災訓練を通じて“いざ”という時の備えも一緒に取り組みたいと考えています。また、フードバンク支援では、必要とされている家庭へお配りする食品をご提供いただいております。旭食品様には、地域と共に歩んできた地域卸として、そして物流のプロとしてのノウハウを活かして、都城市と一緒に盛り上げてくださることを期待しています。



▲危機管理課 原田様

「地域一頼りがいのある問屋」への充電期間に —松山支店・東温市連携協定、その後の成果



▲瀧本支店長

松山支店と愛媛県東温市が「地域協働事業に関する連携協定」を締結してから1年が経ちます。コロナ禍中の協定締結となりましたが、この間に東温市との協働事業は着々と進んでいます。

協定内容の1つである地域産業振興では、“東温らしさ”をコンセプトとした『SAKURA select（さくらセレクト）』選定品の販路拡大に取り組んでいます。これまでに松山支店が開催した商談会には、営業はもとより管理や物流部門のメンバーも参加し、地域の魅力を支店全員で再認識しました。

一方、防災対策では市の備蓄食品の納入が始まり

ました。さらに、地元高校生たちの職場見学受け入れなど新しい交流も始まっています。

瀧本支店長は、「思うような活動が難しい今の状況を“充電期間”と捉え、この支店が地域一頼りがいのある問屋となるためのチャンスづくりにしたい」と意気込みを語ってくれました。



▲松山支店の働く仲間たち

「SAKURA select」選定商品をご紹介します！

農家レストラン由紀つ姫さんの「どぶろく」「どぶろくプリン」「焼肉のタレ」

ベティ・クロッカースさんの「陽光桜ロール」と「ラスク」

五色そうめん森川さんの「もち麦うどん」

農家レストランほたん茶屋さんの「どぶろく」と「どぶろくジェラート」

もち麦のほし草で作ったオーナメント「ヒンメリ・ストローラー」

らくれんさんの「ホームアップ」

野間商店さんの「陽光桜とら巻」

東温市のイメージキャラクター

いのとん

東温市の魅力を一緒に届けたい
—東温市ご担当者様に聞く

「東温市は『東温アルプス』と呼ばれる皿ヶ嶺連峰や市内を流れ重信川を有しており、水と緑があふれる町です。私たちはこの町で生まれた『SAKURA select』選定品をたくさんの方に知っていただきたいと願っています。旭食品様が開催されている商談会への参加は、

生産者からバイヤー様に直接商品のPRをさせていたい。良い機会となり、商品が持つストーリーをお話しさせていただく貴重な場となっています。また防災関連では、松山支店様の敷地を活用した防災訓練の実施へ向け準備を進めています。

現在は、コロナの影響でイベントや防災訓練など直接連携できる機会は制限されていますが、新しい方法も検討しながら取り組みを進めていきたいと考えています」



▲松山支店で行った商談会の様子





特集② コロナ禍中で生まれた新しい発想と行動

旭食品グループの各社では、昨年来の感染症拡大にひるむことなく、消費者とのいろいろな接点を求め、そのニーズに応える事業をつくり出してきました。どのような環境にあっても、食の豊かさと楽しさをお届けするために、私たちは工夫と努力を惜しません。

▲キッチンカーのイベント出店の様子

地元食材にこだわったシェフの料理をお届け！ ——ホテル日航高知ロイヤルのキッチンカー始動



▲シェフの味をお届けします

ホテル日航高知ロイヤルは、キッチンカーでの移動販売を開始しました。コンセプトは『EAT WELL』高知の食材をおいしいシェフの料理で。

コロナ禍で困っている生産者の力になりたいという想いで、高知のおいしい食材にこだわったメニューを提供しています。

キッチンカー販売担当の藤谷直人さんは、次のように語っています。

「コロナ禍の下で、観光業界も大きなダメージを受けているが、私たちはホテルの新たな取り組みとしています」。

て、1月にキッチンカーのサービスを開始しました。開始した直後は、できるだけ多くの企業や店舗の駐車場でホテル自慢のサンドイッチやカレー、スープ、クッキーシュークリームなどを紹介することに努め、少しずつですが認知度の高まりを実感しました。数ヵ月後には、企業への定期的な出店も増え、病院や地元サッカーチームの試合会場など出店場所が拡大しました。また、地元の大学では、カレーを150円で販売して困窮している学生の皆さんへの支援も行いました。出張販売先では、『コロナ禍で外食を自粛している中、従業員においしい料理と一緒に外食気分も味わってもらえてよかったです』とうれしい言葉もいただきます。これからもより多くの場所へ出店し、高知の食材にこだわったシェフの料理をお届けしてまいります」。



コロナ禍で困っている大学生への食料配布

——地域のボランティア団体や学生会と協同で支援活動



▲会場設営の様子

高知支店では、昨年12月、高知大学朝倉キャンパス前で、コロナ禍によりアルバイトなどができず生活に困窮している大学生の皆さんに、生活向上を目的とするボランティア団体(国際ソロブチミストよさこい高知)や学生会と協同して食料配布活動を行いました。

高知支店は商品の提供だけでなく、支援当日の会場設営や配布などにも協力しています。この日は

125名の大学生が会場に訪れました。共に活動した方からは、「お菓子などは購入する余裕がない学生もいるので、とても喜んでくれた」「年末年始に帰省ができない学生もいるから、年越しそばを準備してあげたい」といった話をうかがい、大学生の現状を知ることもできました。

今後も地域の大学生に対する支援活動に協力していくことを考えています。



▲支援物資を求めて集まった学生の皆さん

マスダが南アフリカのワイナリーを支援

——南アフリカ産ワインのオンラインセミナー開催



▲マスダが誇るワインのプロたち

酒類卸会社のマスダでは、南アフリカ産ワインの認知と理解を目的に、2020年7月からオンラインセミナーを開催しています。南アフリカのワイナリーと参加者をつなぎ、参加者は事前に購入したワインを飲みながら聴講していただくというイベントです。また、旅行代理店が開催するオンラインツアーの「南アフリカワインセミナー」と題した企画にも、マスダの働く仲間が講師として協力しています。

現在(2021年7月)、南アフリカではコロナの影響で国内での酒類販売が禁止され、ワイナリーは見学者や試飲の受け入れができません。収入を得る手段は輸出だけです。オンラインセミナーを開催することで、より多くの方に南アフリカ産ワインを知ってもらい、現地ワイナリーで働く方々を少しでも助けてみたいと考えています。



▲ワイナリーのブドウ選別の様子

美味しい寿司を直営店やネット通販で

——大倉のB to C事業は順調に2年目を迎えた



▲宅配寿司の製造現場

寿司ネタ専門卸の大倉では、コロナ禍中のチャレンジとして、B to C事業の「宅配寿司大黒屋 調布センター店」やWEBショップ「海鮮マーケット大倉」を開店し、業務用卸が直接消費者に商品をお届けする取り組みを2020年7月から開始しました。

その後、宅配寿司大黒屋は「府中分倍河原店」「横浜タニヤ食堂店」をオープンし、さらに多くのご家庭で本格的な海の幸を楽しんでいただいている。

また、宅配寿司事業も2年目を迎えて、ネットのお客様のご要望、デリバリー事業のノウハウ、VR店舗の活用法などの深い知識を得たことで、多店舗展開の可能性も見えてきました。

コロナ禍で思うように外食できない状況のもと、消費者の皆様が少しでも豊かな食生活で心が満たされるよう頑張っていきます。



▲料理宅配サービス

TOPICS 2021

2021年旭食品グループトピックス

高知の宝を活かした連携と努力の結晶

—ゆずづくし発売30周年

ゆずぽん酢「ゆずづくし」は2021年7月に発売30周年を迎えました。1991年、高知県土佐山村（現高知市）の皆さんとの協力から生まれ、いまや旭食品グループを代表するブランドに育っています。この間の歴史的経緯と生産者・行政の皆さんとの協業による多彩な地域貢献の歩みを改めてご紹介します。

■すべては「ゆずづくし」から始まった



▲収穫直前の土佐山ゆず

1991年、旭食品の秋冬向け商品商談会「フードランド」で発表して以来、ゆずづくしは順調に実績を伸ばしてきましたが、2008年に大きな転機に恵まれました。

高知市・高知市土佐山柚子生産組合・旭食品の3者で締結した『「ゆず香る中山間地域の創造』パートナーズ協定』です。この協定は、旭食品が高知市の「ゆず産地化対策事業費」に当たる金額を協賛、合わせて全量買い取りを確約する内容です。生産組合は安心して増産し、旭食品側は安定した原料確保を見通せるようになりました。

同パートナーズ協定は2018年に3期目の更新を行い、2019年度にはゆずづくしの製造・販売を行う旭フレッシュから高知市へ「ゆずづくしシリーズ1本販売につき1円の寄付」も始まりました。3者の関係はより深まっています。

■ゆずをめぐるふれあいの創出

土佐山ゆずと市民をつなぐ催しも始まりました。2017年に始まった「土佐山ゆず祭り」は、高知市立義務教育学校「土佐山学舎」の生徒たちの企画が始まったイベントです。旭フレッシュは、土佐山ゆづのブランド化策の一環として第2回（2018年）から運営をサポート、皆さんと共に地域交流に取り組んでいます。

また毎年11月には、旭食品グループの働く仲間が



▲土佐山ゆず祭りの様子（2019年）



▲フードランド会場エントランスに展示した「ゆずづくし 30年のあゆみ」

ゆずの収穫応援に参加、人手不足解消の一助とするだけでなく、ゆず栽培の知識も深めています。

■新しいゆず事業をつくり出す

ゆず資源をさらに活用する動きも始まっています。2016年には、搾汁後の残渣（果皮）処理問題を解決するために、果皮からゆず精油を抽出する「土佐山ファクトリー協同組合」（JA高知市・高知市土佐山柚子生産組合・旭フレッシュの3社が出資）が設立され、ここを通じて旭フレッシュがゆず精油を仕入れ、香料メーカーへ販売するというビジネスモデルが稼働しています。

また、過疎化・高齢化が進む生産地への直接的支援もスタート。2020年から、収穫放棄地や後継者不在地など6反（約5940m²）の畑について、生産者へ声掛けしつつ、働く仲間がゆず生産にチャレンジしています。

発売30周年を一つの節目とし、これからも「ゆずづくし」を愛されるブランドとして高めていく決意です。どうぞよろしくお願いします。



▲発売30周年を記念した商品
(左) ゆず果汁を30%使用した
「ゆづづくし 30周年記念品」（限定3万本）
(右) 今年の新物ゆず果汁を使用した
「ゆづづくし ゆず果汁 35%」（要注文生産）

「静岡のヤマキ」から、全国とつながる地域の問屋へ

—ヤマキ株式会社、山口敦代表取締役社長に聞く

2021年2月、ヤマキ株式会社が旭食品グループの新しい仲間に加わりました。同社は明治初期に青果商として創業し、大正時代に取り扱い品目を拡大して食品卸売業を開始。1970年、商号をヤマキ（株）に変更しました。150年以上の歴史を誇る老舗、ヤマキの事業の特徴やCSRへの取り組みについて、山口社長にうかがいました。



▲地域の食品流通拠点として

創業以来、静岡県だけで商売をやってきました。県内に4つの事業拠点を持ち、社員82名全員が県内出身者です。一つの県に特化しつづけてきたことが特徴であり強みですが、逆に弱みでもあります。



▲地元の言葉が飛び交う事務所

私たちは、「地域のファーストコールカンパニー」、何かあれば最初にご連絡をいただく企業でありたいと思っています。営業職の社員は、メインのお客様を10年は担当し、他の卸の担当者の教育も行うなど、いわばお客様の一員として活動します。そういう意味では、ヤマキは「総合食品商社」と銘打ってはいるものの、個人的にはスマートな「商社」ではなく泥臭い「問屋」の方が自社を正しく表していると思います。

地域密着やお客様密着の社風は、これまでの歴史の中で培われたものです。一つのエピソードですが、地域のお客様が営業不振の時、他社が取引を停止する中で、当社は負債のリスクを十分知りながら、取引を継続して、一緒に難局を乗り越えたことがあります。

CSRの取り組みはまだスタートラインに就いたばかりです。現在は、県内のフードバンクへ株主優待品などから寄贈を行っていますが、将来は地域スーパー

とフードバンク間の流通支援や、行政と連携した災害時の食品備蓄率向上などを模索していきたいと考えています。また、近年のカーボンニュートラルなど環境負荷低減の取り組みとして、社有車両の電気自動車化も視野に入っています。なお、SDGsは10年後の企業経営に不可欠の要素となるのは間違いありませんが、それだけに当社にふさわしい活動を、腹落ちするところまで考え抜こうと思っています。

ヤマキは、これまで食品流通の立場で地域の食文化を支えてきました。この経験を活かし、旭食品グループの一員として、新しい事業分野の知識、静岡県外とのつながり、経営基盤のレベルアップなどを学びながら、一緒に地域問屋の本領を発揮したいと考えています。



▲地域の食を担う商品が並ぶ倉庫内



ヤマキ株式会社
代表取締役社長
山口 敦



重点取組① 地域産業の創出と支援

多様なコラボレーションから確かな成果へ

地域発の事業や商品の開発に不可欠なのは、お互いの強みを活かし合えるパートナーの存在です。生産者や地域メーカーの方々はいうまでもなく、学校・大学、NPO やボランティアなどの皆さんとの柔軟で継続的なコラボレーションを求めていきます。

高校生とタッグを組んで商品企画

— 地域特産品を活用した佐屋高校とのコラボ —



名古屋支店は、愛知県立佐屋高等学校（愛知県愛西市）家庭クラブの生徒の皆さんと、地元特産のれんこんを使用した商品「愛れんこんうどん」（乾麺）を共同で企画しました。

2020年7月から取り組みを開始し、地元食材の選定や商品名、パッケージのデザインなどに生徒の意見を取り入れ、地元のメーカー様と一緒にサポートしながら販売までたどり着いたのです。

2021年4月には地域のスーパーとコンビニエンスストアに商品が並び、発売時には生徒と店頭で販売促進を行い、愛知県の「いいともあいち運動」のホームページでも紹介されました。

今年度も引き続き、新たな共同企画を進めています。

す。家庭クラブで培ったスキルとアイデアを活かし、試作を繰り返しながら皆が納得できる商品をつくり出したいと考えています。



▲オリジナルキャラクター入りのPOP

※いいともあいち運動
県民の皆さん、愛知県の農林水産業の応援団になっていただき、消費者と生産者が一緒にになって愛知県の農林水産業を支えていこうという運動。また、県民の皆さんに愛知県農林水産物をもっと食べてもらい利用してほしいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

家庭クラブ生徒の声

「昨年から取り組みを開始しましたが、企画の段階では、旭食品さんに自分たちの意見を伝えることの難しさを感じていました。ですから、パッケージや商品名など、自分たちの意見が反映された商品ができ上がった時には本当にうれしかったです。



▲店頭PRの様子

商品をスーパーの店頭でPR販売することも初めてでしたが、買い物に来てくださったお客様から『おいしそうだね』『頑張っているね』と声をかけてもらったり、たくさん買っていただいた時は、商品完成の時以上の達成感がありました。

今年度の共同開発では、皆で試作しながらアイデアを出し合っています。良い商品ができ上がるよう精一杯頑張ります！



▲こだわりが詰まったパッケージ

地域の美味しい味を皆様にお届け！

— デリカサラダボーイが地域食材にこだわった商品を開発 —



デリカサラダボーイでは、コロナの影響で消費が落ち込んで困っている生産者の皆さんを助け、地域産品の消費拡大を後押しするため、地域食材を使った商品の開発や製造を行っています。

／地域密着の味！／

デリカサラダボーイのご当地おにぎり



▲全しゃりおにぎり 真鯛の蒲焼 (2020年9月発売/中四国ローソン限定)



▲ちりめん佃煮入もち麦と広島菜の混ぜご飯 (2020年11月発売/中国地方ローソン限定)



▲松山ひじき飯のおにぎり (2020年10月発売/四国地区限定)

チカラを合わせて地元食材を守れ！

— 松山支店と地域6社、茶碗蒸しシリーズを共同開発 —



▲第一弾は真鯛！

2020年秋、愛媛県でもコロナ禍の影響を受け多くの食材が窮地に陥りました。そんな中、(株)エフエム愛媛の倉渢社長とマルトモ(株)の作道支社長、そして松山支店の滝本支店長・稻田営業部長の「愛媛の食産業を守りたい！」という思いが出会い、県内企業の技術と経験を結集した「茶碗蒸し」の開発が始まりました。

第一弾は、原料に秀長水産(株)の真鯛とマルトモ(株)のダシを使用し、豆腐製造を行う東予食品工業組合による製造と(株)K's Corporation(広告代理店)によるプロモーションにより、全行程を愛媛県内企業が担う「真鯛づくしの茶碗蒸し」(2020年11月発売)が誕生しました。また、第二弾の「甘とろ豚愛ある茶碗蒸し」(2021年2月発売)は、松山の老舗ホテル「古湧園遙」の村上料理長による監修も



▲第二弾は甘とろ豚！

加わり、さらに本格的な味わいが楽しめる商品となりました。

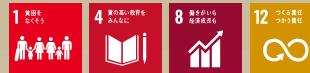
今後も松山支店では、地元企業の強みを生かしながら、愛媛を盛り上げる商品づくりに取り組んでいます。



▲商品化までの経緯や思いをつづった販促ポスター



▲商品化までの経緯や思いをつづった販促ポスター

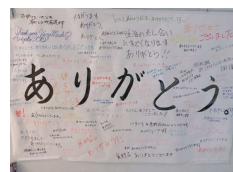


重点取組② 地域コミュニティ支援 地域の課題を見据えて できることから一つずつ

フードバンク寄贈の取組は全国の拠点へ広がり着実に成果を出しています。また、支援学校生徒への就業支援など雇用面のお手伝いも手がけてきました。さまざまな理由から困難に遭遇している方たちに向けて、確実な手助けをお届けしていきます。

「食べることで終わらせたい」

——旭食品グループのフードロス削減の取り組み



▲受け取った方からの寄せ書き
旭食品グループでは、以前から一部の拠点でフードバンクなどへ「訳あり商品*」の寄贈を行っていましたが、2019年10月に施行された「食品ロス削減推進法（略称）」を受け、フードロス削減に取り組む意識が各段に高まりました。実際2020年度には、不可抗力で発生した訳あり商品を廃棄してフードロスにするのではなく、「食べることで終わらせたい」という思いか

ら、全国13拠点にてフードバンクへ寄贈の取組が行われ、活動が広がりをみせています。

また、今後の課題としては、単にフードバンクなどの受け入れ施設へ寄贈するだけでなく、最終的な支援先を知ることで、働く仲間と困っている方に貢献できたことを共有し、取組に対する意識を高めたいと考えています。

※「訳あり商品」について
在庫の鮮度管理のために設定した期限内に販売できなかった商品や流通段階での包材損傷や、得意先様からの返品など、まだ食べられるのに販売できなくなった商品のことを指しています。

■各拠点での取組の様子



寄贈食品が行政と支援家庭をつなぎます

——門真市こども政策課からの声

2020年9月に大阪支店と大阪府門真市は「子どもの貧困に関する施策に係る門真市と旭食品株式会社との食品等の提供に関する協定」を締結し、継続的に食料品を寄贈しています。門真市子どもの未来応援ネットワーク事業推進員の方から、取組についてコメントをいただきましたので紹介します。

「支援を必要としているご家庭に寄贈品を直接お届けすることで、各ご家庭の食生活を垣間見られたり、保護者が定期的に市役所を訪れて子どもたちの

話をしてくれたりするようになりました。旭食品様から寄贈していただいた食品が、支援家庭と子ども政策課がつながる一助になっています」



▲寄附した商品の配達準備の様子

働く仲間の理解と協力を育てる

——九州中央支店、「パートナーシップ・オフィス」に認定

九州中央支店は、佐賀県から特別支援学校高等部生徒の就労に貢献した企業として「パートナーシップ・オフィス」の認定を受け、2020年10月に開催された佐賀県特別支援学校就労支援フォーラムで表彰されました。

また、2016年から中原特別支援学校の現場実習を受け入れていますが、当時は旭食品グループ内の受け入れ事例が少なかったため、働く仲間の理解を得るべく、地域のハローワークや障がい者支援法人の講師を招いて勉強会を開催するところから始めました。

その結果、これまでに卒業生3名の雇用につながり、今年も現場実習の受け入れや学校行事への参加など

の取組を継続しています。

九州中央支店は、今後も中原特別支援学校への支援を通じて、地域雇用の拡大・創出に貢献します。



▲九州中央支店の物流部門で働く仲間たち

【九州中央支店】

中原特別支援学校卒業生の声 (上杉さん、山口さん、高橋さん)

「特別支援学校時代に受けた現場実習では、作業のやり方を分かりやすく教えていただいたことや、現場の皆さんの手際よい動きが強く印象に残っています。入社後は新しく業務を任せられることもあり、やりがいを感じながら楽しく働いています」



▲卒業生たちと九州支社物流本部の守田部長

コロナの影響下でも体験実習を受け入れ

——神戸支店、体験実習の指導担当者の声



▲トライやる・ウィーク案内ポスター

神戸支店では、兵庫県で1998年から行われている「地域活動を通じて課題を見つけ学び生きる力をつける『トライやる・ウィーク』」に参加する地元中学生と、西神戸高等特別支援学校生を対象に2017年の開校当初から、就労に向けた職場体験実習を受け入れています。

中学生には仕事の楽しさや厳しさ、職場の雰囲気を知ってもらい、高校生には就職そのものに役立ててもらえるように、神戸支店の働く仲間たちで支援しています。実習時には、倉庫内で事故などが起こらないように、生徒の安全確保、体調管理に万全の注意を払っています。

この職場体験実習に参加してくださった方々が、実習を経験してどのように成長されるのかが楽しみです。

【神戸支店】

西神戸高等特別支援学校の先生・生徒の声

(先生の声)

「コロナ禍で体験実習先が少なくなっている中、生徒を快く受け入れてくださって感謝しています」

(生徒の声)

「初めての場所で緊張していましたが、温かく丁寧に教えていただき、良い体験ができました」



▲庫内実習に取り組む生徒の様子



重点取組③ 働く仲間の成長

「働きがい」の基盤を整える さまざまな試み

「働きがい」の基盤整備には地道な取組が求められます。女性健康セミナー、男性の子育て支援、社内コミュニケーション活性化、さらにコロナ禍に負けない「旭家」の活動など、掛け声に終わらない実践的な活動をグループ内各所で行っています。

家族と仲間への思いやりを大切にしたい

—旭フレッシュ 仁井田工場長が考える“仕事と家族”



▲旭フレッシュの事務所の様子
偶然ですが、旭フレッシュには子育て世代の従業員が多く集まっており、普段から家族や家庭の話がよく交わされています。2019年、一人の男性従業員から、「育児休暇を取得したい」という希望が出たときは、皆で彼をサポートし育児へ送り出すことができました。

また2020年末には、高知県主催の男性の仕事と育児の両立を後押しする取組「僕らの子育てキャンペー

ン」に、私も含め3人の男性従業員が子どもと一緒に参加しました。

これからも、働く仲間一人ひとりが家族と仕事に対する思いやりを持ち続けられる職場環境を大切にしたいと思っています。



▲父親として成長できた! か月でした!



▲取り組みの様子
(2021年1月10日 高知新聞掲載)

働く仲間がいきいきと健康に働ける職場を！

—人事部「女性の健康セミナー」など「健康経営」を推進



▲女性の健康セミナーの様子
旭食品グループは、基本理念の「働く仲間の成長と幸福を追求すること」を具現化するため、働く仲間が健康でいきいき働ける職場環境づくりを目指して「健康経営」を進めています。

2020年には「健康経営」に関連するさまざまな取り組みを実施しましたが、中でも「女性ならではの体の悩みや不調に対する対処方法や向き合い方」などを採り上げた「女性の健康セミナー」は多くの方に参加いただきました。これらの活動の結果、今春「健康経営優良法人

」に認定されたことをご報告します。

2021年度も、新型コロナワクチン接種や健康診断再検査時の特別休暇の制定、健康診断結果の「見える化」などに取り組み、さらなる働く仲間の健康づくりをサポートします！



※「健康経営優良法人」とは「健康経営優良法人」とは経済産業省が「積極的に健康活動に取り組んでいる企業に対して認定する」制度です。

ぬりえで育む旭食品カルチャー

—さまざまな趣向で楽しむ旭家のぬりえ大会



▲ぬりえイラスト

「旭家」では、2017年度より「職場内で子育てしやすい雰囲気をつくりたい」という思いから「子ども参観日」(職場見学会)を開催しています。

しかし、昨年はコロナ禍の影響で、残念ながら中止となりました。そこで、どこでも・誰とでも旭食品について話を交わすきっかけづくりを目的とする企画「ぬりえ大会」を実施しました。

今回の企画では、独自の作品コンテストを設けた事業所や、当社とつながりがある児童館の利用者に

■集まった力作の数々



▲香川支店



▲デリカサラダボーイ岡山工場



▲広島支店・中国支社



▲本社・四国支社・高知支店・四国総合流通センター

もご参加いただいた事例などもあり、さまざまなかたちで楽しみながら当社を知っていただくことができました。

同じ場所で笑顔を交わすのが難しい状況はもう少し続きそうですが、旭家ではこれからも「働く仲間の成長と和」を育む活動に取り組んでいきます。



▲香川支店の参加者の皆さん

自分たちでつくる醉鯨の未来

—醉鯨酒造『コミュニケーションチーム』の活動



▲醉鯨社内で行われている勉強会の様子

醉鯨酒造では、53名の働く仲間がそれぞれの役割を担い、日々おいしい酒造りを追求しています。そのためには、諸先輩方が育んだ技術を大切に受け継ぎ

守る姿勢と共に、世界中の皆様に醉鯨を通して笑顔をお届けするための新たな創造や挑戦も必要です。そこで社内では、ブランド向上を目的とした「ブランディ

ングチーム」やISO22000の認証内容遵守のために活動する「ISOチーム」など、部署や役職、年齢、性別を超えた従業員で構成するいくつかのプロジェクトを立ち上げ、それぞれが「醉鯨の未来は自分たちがつくっている!」という思いで課題の解決や夢の実現に向かって切磋琢磨しています。

その中の一つである『コミュニケーションチーム』は、従業員同士の交流や情報共有などを円滑にすることでしなやかで強い組織を作るという目的を掲げています。

『コミュニケーションチーム』メンバーの声

「会社の未来を自分たちで考え形にすることに、やりがいと同時に責任を感じます。ただ、そこには共に取り組む仲間がいて、『世界に笑顔を届ける醉鯨になろう!』とみんな本気です。よい会社、働きがい、信頼できる仲間。それらは『自分たちでつくるものなんだ』とメンバー全員が実感しています」



▲醉鯨酒造 コミュニケーションチームの皆さん



基礎的取組 安全・安心と環境・資源 技術と思いやりの両面から CSRを実行する

食の安全性を高めフードロスを減らす窒素ガス充填惣菜や四国総合流通センターへのEMS導入などの技術的対応だけでなく、地域の安全活動や清掃活動など、人と環境を思いやる諸活動にも取り組むことで、“地域社会へのCSR”も一歩ずつ実現していきます。

食品の廃棄ロス削減にも貢献

—デリカサラダボーイ宇多津工場、MAP商品販売開始



デリカサラダボーイ(株)宇多津工場では、2021年2月からMAP(ガス置換)商品の製造・販売を開始しました。MAPとは、Modified(置き換えられた)Atmosphere(空気/環境)Packaging(包装)の頭文字で、商品パッケージ内の空気を食品の保存に適したガスに置換して包装することです。

商品の消費期限延長のメリットには、①食べられる期間が延びるので廃棄ロスの削減が見込め

る、②コロナ禍などで買い物の回数を減らす場合にまとめ買いが可能になる、③商品の配送可能な距離や時間が延びるので、これまでお届けできなかった地域にも供給でき、地方の特産品などの流通拡大に貢献できる、などが挙げられます。さらに、工場では製造や在庫管理の効率化、店舗でも販売期間の延長によるコスト削減といった多くのメリットがあります。

今後は、得意先様やお客様からのご要望を取り入れたMAP惣菜アイテムを増やし、販売を拡大することで食品の廃棄ロス削減にも貢献していきたいと考えています。



開発担当者のコメント
生産事業本部 営業部 商品開発課
林 課長

「MAP惣菜は、化学保存料を使用しなくてもおいしく食べることができ、さらに包装容器の簡素化もできる『環境にやさしいお惣菜』です。これからも得意先様や実際に食べていただくお客様からのニーズにお応えする商品づくりを行っていきます」



▲林課長(中央)と宇多津工場の皆さん

環境にも人にもやさしい職場へ

—四国総合流通センターのEMS(エネルギー・マネジメントシステム)導入完了



2021年1月、四国総合流通センターでは「EMS」の導入が完了しました。EMSとは、照明設備や空調設備など施設全体で使用するエネルギー使用量をモニタリングし、最適な利用状態に制御するシステムです。

照明設備については、すでに入れ替えが完了しているLED照明に加え、人の動きを感じし調光を行う“人感センサー”も導入しました。また、エアコンなどの

空調設備にも室内温度を細かく監視するシステムを配備し、適切な温度管理が可能となっています。

四国総合流通センターでは、EMSを活用しエネルギー使用量の効率化を図りながら、快適な職場環境の実現にもつなげています。



▲エネルギー利用量をモニタリングする監視盤

2020年度 旭食品グループエネルギー利用状況

■エネルギー利用量

	卸売業	製造業	ホテル・小売業
LPGガス(t)	71.6	809.7	-
都市ガス(m ³)	2,403	182,261	208,625
重油(kl)	-	194.3	-
電気(kWh)	26,782,069 夜間 12,507,629	10,575,781 -	1,907,444 695,730
水道(m ³)	68,124	117,758	33,856

■環境負荷状況

原油換算量(kl)	9,980	4,189	899
CO ₂ 排出量(t)	13,579	6,967	1,363

2020年度は、多くの拠点で水道の利用量が増えました。これは新型コロナウィルス感染症の予防のため、一人ひとりの手洗いやうがいが多くなったことが一因として考えられています。

旭食品グループはCO₂など温室効果ガスが要因とされる気候変動、また近年の異常気象による災害発生時の問題に対して目をそらさずに向き合っていきます。

頼れる問屋は地域の安全も守ります

——地域の子どもや人々への見守り活動

旭食品グループの社会貢献活動には、“地域の安全を守る”活動もあります。

たとえば高知支店では、毎月 20 日の交通安全の日に合わせて支店周辺の交差点で交通指導を行っています。徳島支店は「こども安全パトロール」、広島支店は「地域まるごと 子ども見守り宣言！」のステッカーを営業車に貼り、地域の人々や登下校中の子どもたちの安全に気を配っています。また、和歌山支店は、和歌山県警察の「きしゅう君の家」に登録しています。

危険な人物や事件から子どもたちを守る避難所になっています。

それぞれの地域の方々に「旭食品があつて良かった」

「旭食品があるから安心だ」と思っていただけるように、今後も地域の安全を守る活動を継続していきます。



▲四国総合流通センター前での活動（高知支店）

■各地での見守り活動の様子

高知支店



▲沿線の道の駅での交通安全運動と清掃活動。

宿毛営業所（高知支店）



▲事業所前に新しく開通した道路での交通安全の見守り。大きな車も通るので子どもたちにしっかり目を配ります。

徳島支店



▲地域安全運動の一環として営業車22台が“こども110番の車”に指定されました。徳島県内の見守り支援を行っています。

和歌山支店



▲和歌山県警主催の地域見守り推進事業「きしゅう君の家」に登録しました。警察と連携しながら地域の子供を守る活動を行っています。

「地域まるごと 子ども見守り宣言！」に取り組む広島支店の声

別所 支店長

「営業車両にステッカーを貼ることで、地域の子どもたちの安心・安全を守る役割を果たしたいと思っています。この取り組みで、支店の仲間が一層安全運転を心掛け、営業中でもなんらかのかたちで地域に貢献できれば幸いです。」



▲見守リストステッカーを張った広島支店の営業車輛

地域への恩返しから生まれる豊かな感性

——地域に根付いた清掃活動

高知から全国へ活動拠点を広げてきた旭食品グループでは、それぞれの地域で事業活動を支えていただいた皆様に感謝を込め、多くの事業所が清掃活動に取り組んでいます。清掃活動は、働く仲間が事業所周辺で行うものや地域の清掃イベントへの参加、また事業所で企画して地域の皆様と一緒にになって活動するものなどなどたちはさまざまです。

事業所のメンバーにとっても、普段かわることが少ない他部署の仲間とのコミュニケーションや、

地域の皆様から頂く「きれいに清掃してくれてありがとうございます」という言葉が、一人ひとりの意識向上にもつながっています。

清掃活動は社会貢献活動だけでなく、新しい気付きやつながりを生み出す大切な時間なのです。



▲地域の清掃イベントへの参加（香川支店）

■各地での清掃活動の様子

京都支店



滋賀営業所（京都支店）



神戸支店



境港支店



松山支店



香川支店



高知支店



▲ホテル日航高知ロイヤル

側溝清掃で道路の冠水を防ぐ 京都支店舞鶴営業所 田中さんのコメント

「事業所周辺は雨で側溝から水が溢れ、道路が冠水する悩みがあったため、市役所と話し合い、皆で側溝の清掃を行いました。驚いたのは落ち葉やごみの量！市から提供されたスコップが大活躍しました。今年も落ち葉が増える秋に向か、昨年同様の清掃活動に取り組みます」



▲集めた落ち葉と一緒に

「フードランド 2021」開催！

—コロナ対策を徹底して、リアル展示会の良さを追求

昨年はコロナ禍の影響で開催を中止した商品展示会「フードランド」を、7月7～8日の2日間、高知ぢばさんセンター（高知市）で2年ぶりに開催しました。



会場では感染対策を徹底し、入場時の検温、マスクやフェイスシールドの着用はもちろんのこと、密集を避けるため、事前登録によって来場者を例年より大幅に削減、バーコード管理によって入場者数をリアルタイムで監視、コントロールしました。また、会場内の通路幅をいつもより広げ、メーカー担当者様には手袋着用の上で試食も個包装でお渡しすること



を徹底しました。

メーカー様からは、「お客様に商品の情報を直接お届けすることができて良かった」、来場されたお客様からは、「展示会の中止が続き、情報不足を感じていた。コロナ対策を徹底してリアル開催されたことで多くの情報を得られて良かった」といった声を聞くことができました。

WEB展示会ではなく、お客様に商品を見て触って試食していただきリアル展示会を開催したいという私たちの想いの詰まった「フードランド 2021」。商品情報だけでなく、メーカー様と私たちの「心」も直接お届けすることでリアル展示会の良さを再認識していただけたと感じています。



▲入場者をバーコードで管理



▲試食を個包装でお渡し



▲出展メーカー様には、差し支えない範囲で、展示・サンプル商品などを提供いただき、後日地元品より「こうち食支援ネット」と「高知市社会福祉協議会」に寄贈しました。

編集後記

今号で旭食品グループ CSR 報告書は4冊目になります。この間ご協力をいただいた各方面の皆様には、深く感謝申し上げます。

今回の報告書を作成していく気付いたのは、各拠点で取り組んでいる CSR 活動が飛躍的に増えたことです。昨年までは、高知県をはじめとする四国地区の活動を記事にすることが多かったのです

が、今回はさまざまな活動のどれを紹介するか頭を悩ませるほど全社に広がったと感じます。旭食品グループの CSR マインドは、これから地域課題の解決に向けて深化の局面に入ることは間違ひありません。私たちも全力を擧げてサポートしていきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

CSR 推進課

旭食品グループ 概要

概 要

■創業 1923（大正12）年10月3日

■資本金 5億円

■事業内容 加工食品・冷凍食品・チルド食品・酒類・菓子・家庭用品の卸売業、ホテル事業
酒類・総菜・弁当の製造販売、水産物の加工販売 等

事業所 (2021年9月現在)

本社

東京本部、神戸事務所、ホテル日航高知ロイヤル

四国支社

高知支店
-宿毛営業所
-室戸営業所

松山支店

新居浜支店

徳島支店

香川支店

中国支社

広島支店

岡山支店

境港支店

山口支店

九州支社

九州中央支店
-唐津営業所
-宮崎営業所

近畿支社

大阪支店

和歌山支店

京都支店

舞鶴営業所

滋賀営業所

神戸支店

名古屋支店

三重営業所

東京支社

首都圏支店
-埼玉営業所

東関東支店

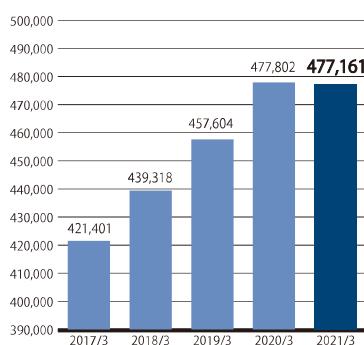
-土浦営業所
北関東支店
-群馬営業所
-足利営業所

グループ会社

旭フレッシュ(株)
醉鯨酒造(株)
デリカサラダボーリ(株)
(株)パレネットコーポレーション
(株)アサヒショップ
(株)旭フードサービス関東
(株)フードム
(株)大倉
Green Earth Power Japan(株)
旭フードサービス(株)
SAKURA FOOD CO., LTD.
(株)マスター
かいせい物産(株)
(株)旭ものづくり研究所
ヤマキ(株)

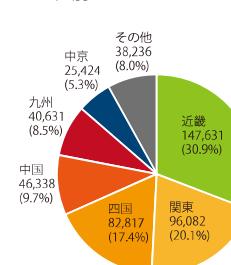
2020年度業績 (2021年3月期売上高 4,771億6千1百万円)

売上高推移 単位：百万円（端数切り捨て）



売上高構成比 単位：百万円（端数切り捨て）

■地区別



■部門別

